

夕&Eye

十人に一人が愛用しているといわれるコンタクトレンズ。ケアが楽な使い捨てタイプが普及し、手軽に利用する人が増えた。ただ、コンタクトはれっきとした医療機器。直接目に触れるものだけに正しく使用しないと角膜などに深刻な障害を招く恐れがある。

コンタクトレンズ装用でまねく恐れのある主な目の病気

病名	症状
角膜浸潤	角膜が白く濁る。痛みや充血など
角膜潰瘍	白い斑点ができる。痛みや視力低下、失明も
点状表層角膜症	角膜表面に細かい点状の傷ができる。異物感や充血など
巨大乳頭結膜炎	まぶたの裏側にブツブツが増える。目やにの増加など

西島西井上眼科クリニックの勝海修所長は「レンズをはめて違和感を覚えたら、使用をやめる。すぐに眼科医の診断を受けること」と忠告する。早期治療だと、数日間の点眼だけで症状が回復することが多い。治療はまずレンズの装用を中止、抗菌薬などの目薬や内服薬をとるのが一般的。例えば角膜浸潤や充血がなくなることがほとんど。ただ、白く濁った角膜部分が半年ほど残る場合もある。四月からコンタクトの定期検査が保険適用外になりはない。

都内に住む二十代の女性Aさんは、一日使った捨てタイプのコンタクトを使う。ある日、鏡を見ると目の充血がひどくなっていることに気づいた。レンズを外しても「こころ」する不快感がなかなかとれない。痛みも徐々に増してきた。

酸素不足が主因
コンタクトが急速に普及するなか、装用期間を及ぼす何日も使ったままのレンズを外しても「こころ」する不快感がなかなかとれない。痛みも徐々に増してきた。

目の障害を訴えてくる人は、正しい使い方を守っていないと嘆く。コンタクトによるトラブルの主な原因が、長時間

「コンタクトによる目の障害は、もはや生活習慣病だ」と勝海所長は言う。使い方を守り、ケアを怠らないよう利用習慣をさげ、近視

気になって眼科医に診てもらった。黒目に当たる角膜に炎症が起る「角膜浸潤」と診断された。抗菌剤の入った目薬をさすと、二三日で痛みはなんとか消え、充血も落ち着いた。

コンタクト 手軽な使い捨てタイプ普及 正しく使おう

「繰り返し」をやめ 3カ月に1回検査

間使い続けて起こる目の酸素不足。角膜浸潤のほか、激しい痛みを伴い角膜が白く濁る斑点ができる「角膜潰瘍(かいよう)」など様々な目の障害が起こる可能性が高くなる。酸素不足やレンズのキズ・汚れによって「防護壁」となる角膜の表面が痛み、ウイルスなどに感染しやすくなるからだ。

「繰り返し」をやめ、3カ月に1回検査。間使い続けて起こる目の酸素不足。角膜浸潤のほか、激しい痛みを伴い角膜が白く濁る斑点ができる「角膜潰瘍(かいよう)」など様々な目の障害が起こる可能性が高くなる。酸素不足やレンズのキズ・汚れによって「防護壁」となる角膜の表面が痛み、ウイルスなどに感染しやすくなるからだ。

体のシグナル

甲状腺機能亢進症

「さん(73歳、女性)は、いらいらしている自分を感じていた。もともと食事はよくとる方だが、食べても食べても体重が増えない。むしろ痩せてきているという。原因の見当すらつかず、どうもがんのような深刻な病気ではないかと、何かにつけて夫から言われることが

痩せる場合も

にへ 器だ 甲

当たりがあつた。一日使ったまま残ったタイプにかかわりなく、最長で約二週間も繰り返し使っている。正しい使い方をしている人が増えている。日本コンタクトレンズ学会常任理事を務める梶田雅義・梶田眼科院長は「コンタクト

日本眼科医会の調査だと、コンタクト装用者の十人に一人が、何らかの目の病気がかかっているという。角膜潰瘍などは放っておくと失明につながる

甲状腺機能亢進症は、甲状腺が過剰に甲状腺ホルモンを分泌し、代謝が亢進する病気。体重が減少し、心拍数が速くなる。甲状腺機能亢進症は、甲状腺が過剰に甲状腺ホルモンを分泌し、代謝が亢進する病気。体重が減少し、心拍数が速くなる。

甲状腺機能亢進症